

日本史(23)「摂関政治」

○今回のポイント

安和の変で左大臣・源高明が左遷され、藤原氏の権力独占が決定的になると、今度は藤原氏内部で権力闘争が勃発した。

【摂関政治】

(1) 摂関政治

- ① [1. 摂政] …天皇が幼少の期間にその政務を代行する。
- ② [2. 関白] …天皇の成人後に、その後見役として政治を補佐する。
- ③ [3. 摂関政治] …10世紀後半から11世紀頃、摂政・関白が引き続いて任命され、政権の最高の座にあった政治。摂政・関白を出す家柄を摂関家という。
- ④ [4. 氏長者] (ウジナチョウジャ)
 - ・ 氏の首長、代表者。藤原氏は摂政・関白に就任した者が最高の地位にあるものとして、「氏長者」を兼ねる。
 - ・ 藤原氏の氏長者は氏寺の [5. 興福寺] や氏社の [6. 春日社]、大学別曹の [7. 勸学院] などを管理し、任官や叙位の際には、氏に属する人々の推薦権を持っていたので、人事の全体を兼ね、絶大な権力を握った。

(2) 道長・頼通の時代

① 摂関家内部の権力闘争

[8. 兼通] (カネチ) VS [9. 兼家] (カネエ) の兄弟争い

『大鏡』に記されていることで有名な兄弟争い。兼通が死の直前にあたって、臨時除目をだし、弟の兼家ではなく従兄弟の [10. 頼忠] に関白の地位を譲ったエピソードが知られる。

↓

[11. 道隆] (ミチカ) VS [12. 道兼] (ミチカネ) の兄弟争い

上記の藤原兼家が権力を握るためには [13. 花山天皇] を早期に退位させ、自分が外戚となるため後の一条天皇を即位させる必要があった。これに応じて花山天皇をだまし討ちにして出家させたのが兼家の息子： [14. 道兼] であった。道兼は父親の跡継ぎを功績があった自分だと思っていたが、長兄である [15. 道隆] が継いだ。道兼はこれを甚だ憎む。道隆死後、道兼は念願の関白となったが、病死し「七日関白」と呼ばれる。

↓

[16. 道長] (ミチカガ) VS [17. 伊周] (イシカ) の叔父・甥争い

道兼が「七日関白」で死去した後、道隆の弟：道長と、道隆の息子：伊周の間で権力闘争が起こる。 [18. 一条天皇] は関白を道長にするか伊周にするかで悩むが、一条天皇の母であり、道長の姉妹の詮子の圧力により、道長に決まる。伊周は妹の定子が一条帝から寵愛を受けたおかげで勢力を誇ったが、これを詮子は快く思われなかったからである。

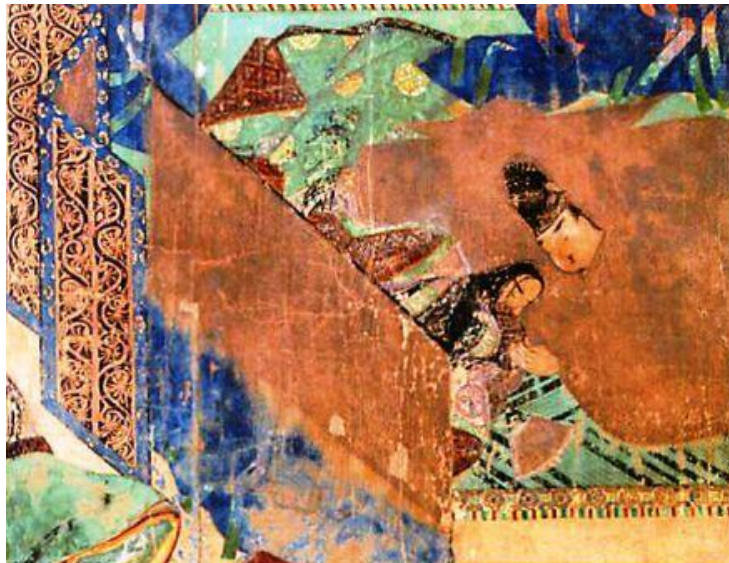
↓

[19. 道長] と [20. 頼通] の時代

- ・ 道長
 - 4人の娘を中宮(皇后)や皇太子妃として30年にわたり権勢をふるった。
 - 世界遺産『21. 御堂関白記』を残しているが、道長は関白にはなっていない。
 - 「望月の歌」のエピソードは [22. 藤原実資] の『23. 小右記』(ショウゴキ) から。
- ・ [24. 後一条]、[25. 後朱雀]、[26. 後冷泉] は道長の外孫。
- ・ [27. 頼通] → 3天皇50年にわたって摂政・関白をつとめて、摂関家の勢力は安定。

(3)母系社会と外戚政策

- ・結婚した男女…妻側の両親と同居するか、新居を構えて住むのが一般的
- ・[28. 母系社会]…夫は妻の父の庇護を受ける。子は母方の手で養育される。
- ・摂政、関白は、天皇の[29. 外戚]として、伝統的な天皇の高い権威を利用し、大きな権力を握った。



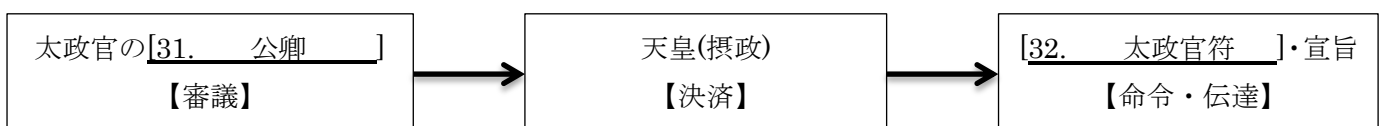
▲貴族の結婚(「源氏物語絵巻」) 男性が女性のもとに三晩通うことが、男性の結婚の意志を示すことであった。翌日、女性の両親や親類縁者と対面し、その晩に祝宴が行われた(「露^{とろあられ}顕」という)。これをもって正式に結婚が成立する。図は、匂宮が夕霧の娘六の宮のもとに三晩通った翌朝の様子を描いた場面。

(4)摂関政治の運営

①政治形態

- ・摂関政治のもとでも、天皇が[30. 太政官]を通じて中央・地方の官吏を指揮し、全国を統一的に支配。

②一般的な政務



③重要な政務 (外交や財政)

- [33. 陣定] (ジンサガメ)…内裏の近衛の陣の会議。公卿各自の意見が求められ天皇の決済の参考にされた。

(5)摂関家の人事権掌握

- 摂政・関白が官吏の[34. 人事権]を掌握

- 中下級貴族たちは摂関家を頂点とする上級貴族に隷属
- 昇進の順序や限度は家柄や外戚によってほぼ決まる

- 中・下級貴族の生き残り作戦

- 摂関家などに取り入ってその家の事務を扱う職員である[35. 家司] (ケイ)となる
- 経済的に有利な地位になっていた国司(36. 受領)になることを求める。